




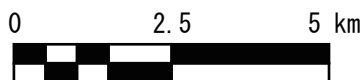
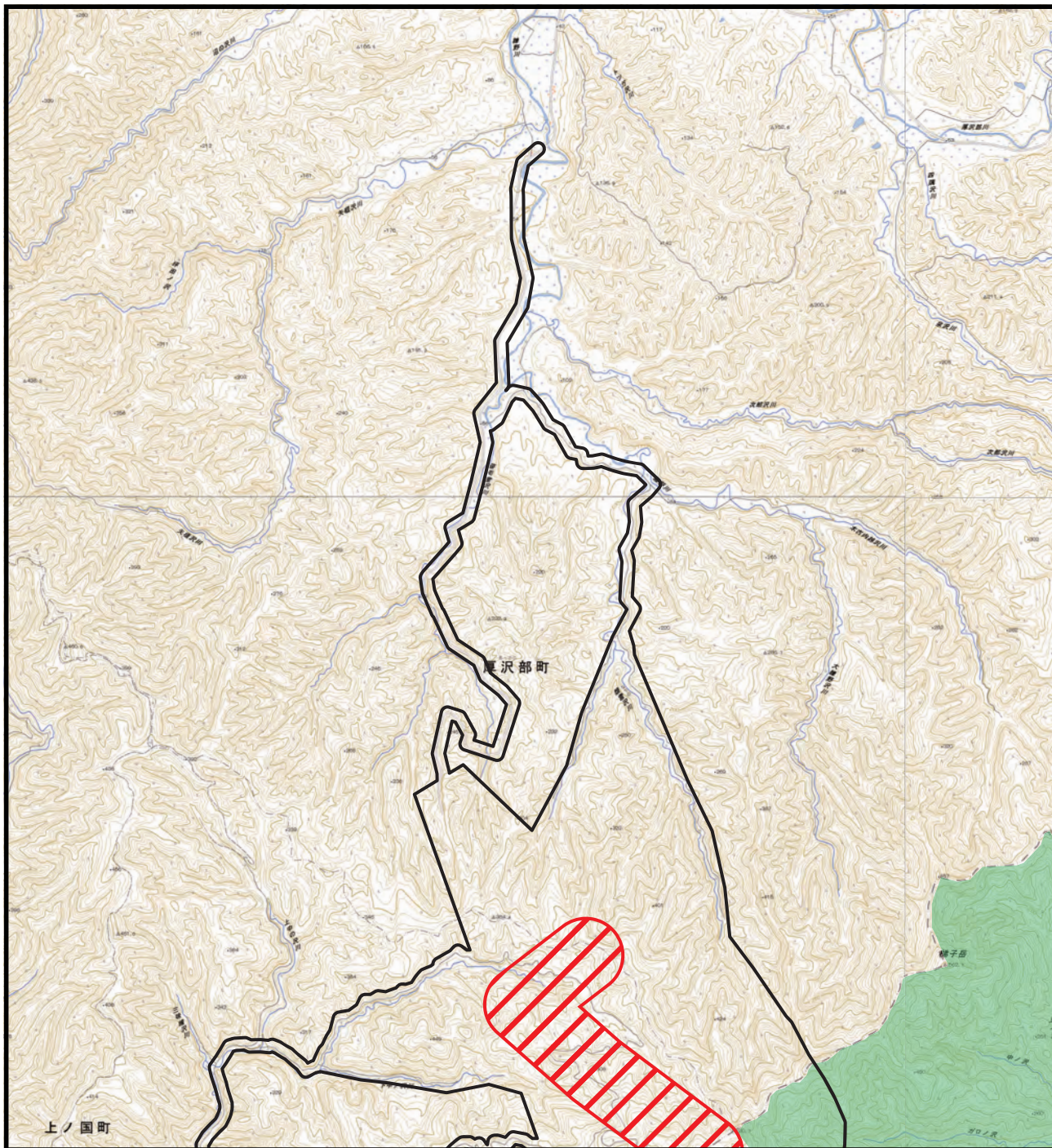


凡 例




-  事業実施想定区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  伏流水
-  集水域
-  河川

1:120,000





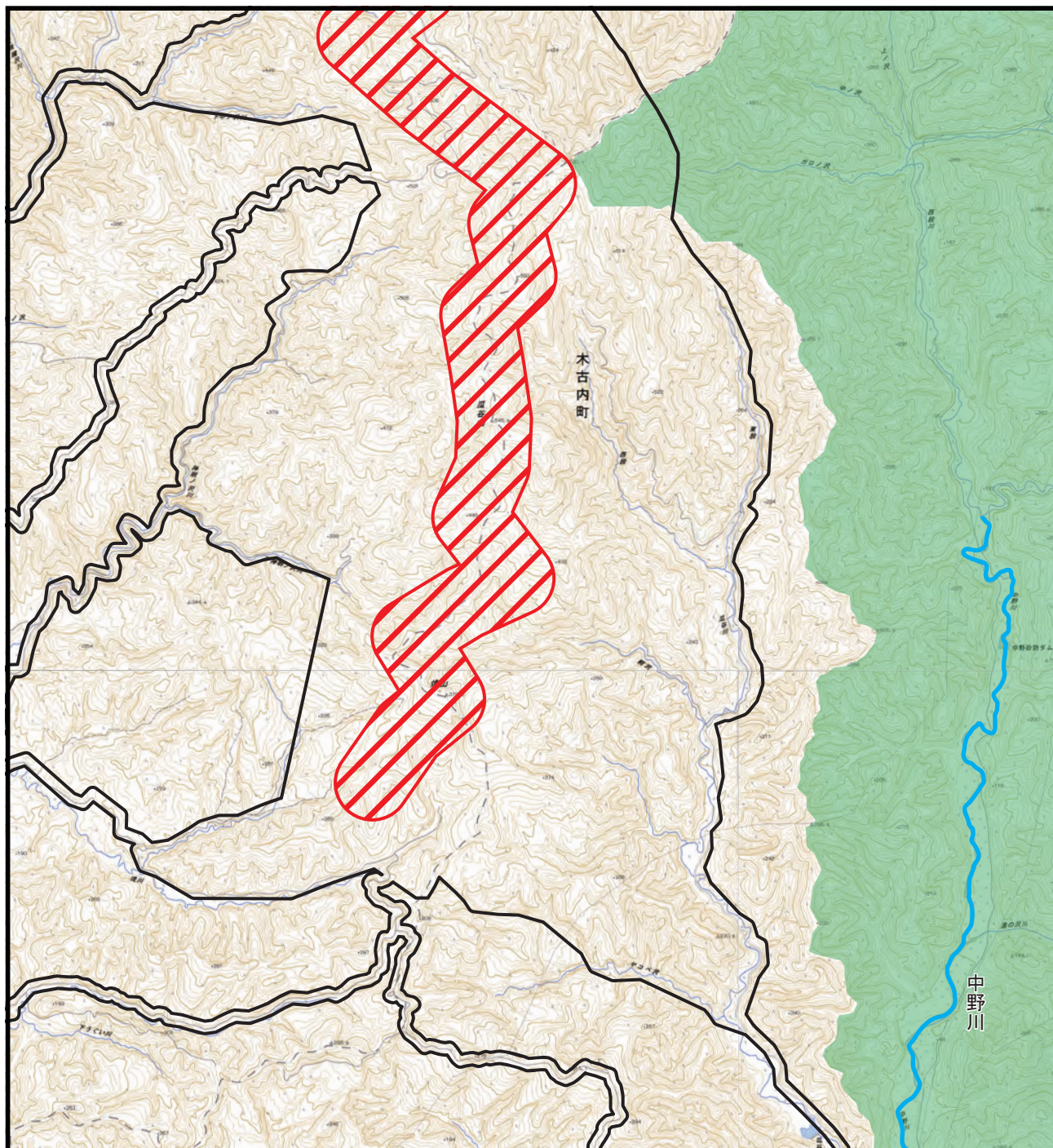
凡 例

-  事業実施想定区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  集水域







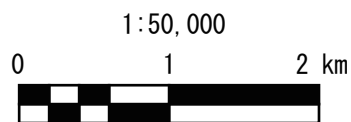
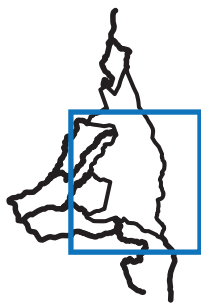
1:50,000

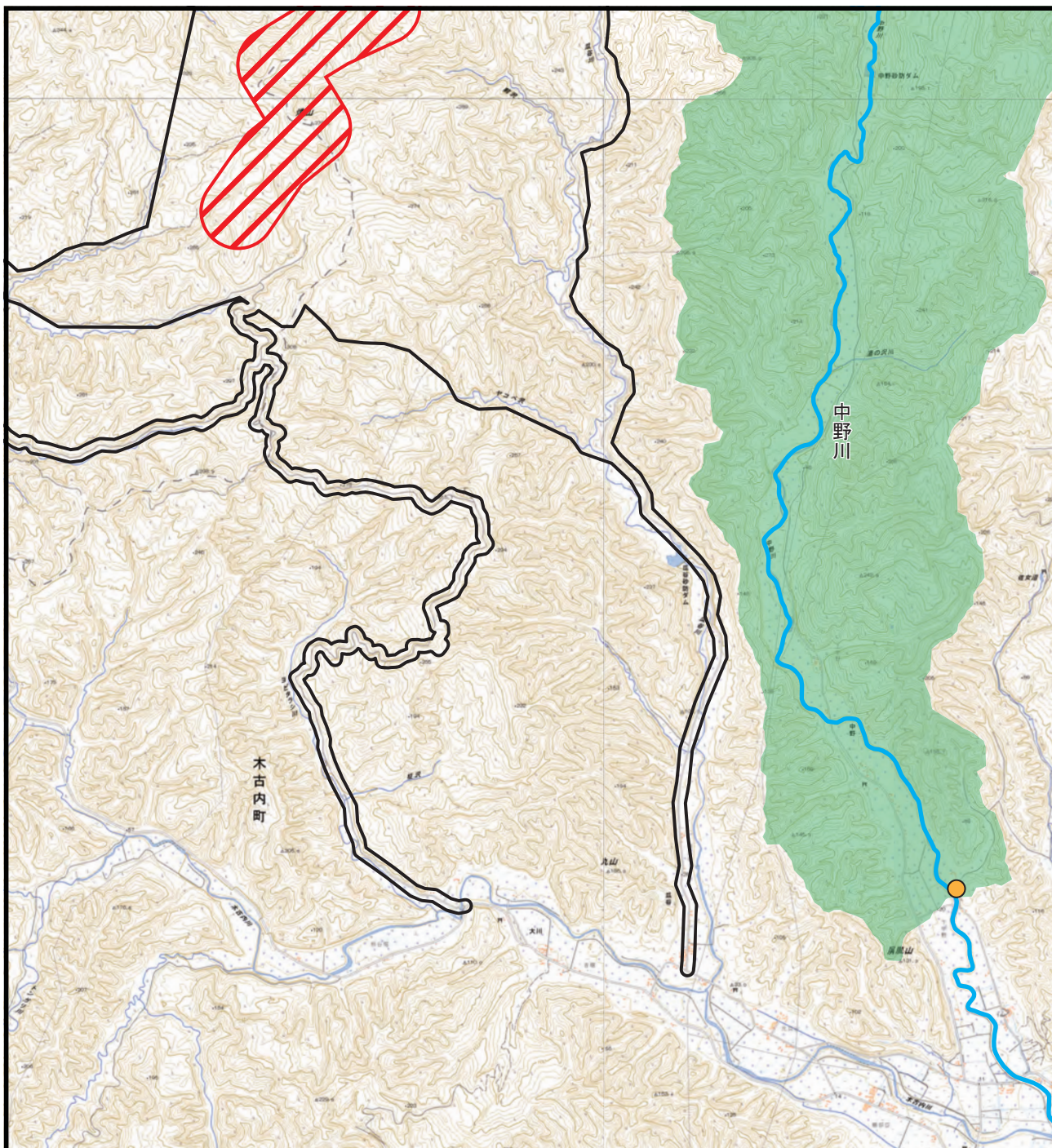









凡 例

-  事業実施想定区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  集水域
-  河川





凡 例

-  事業実施想定区域
-  風力発電機の設置予定範囲
-  伏流水
-  集水域
-  河川

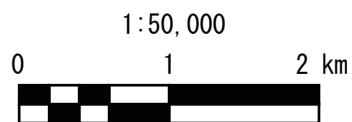
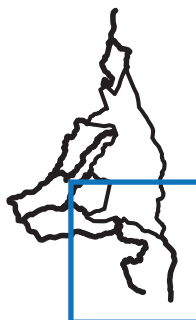


表 3.2-16 産業廃棄物の状況（令和2年度）

（単位：t）

区分	発生量	有価物量	排出量				
			合計	再生利用量	減量化量	自己保管・ その他等量	最終処分量
渡島総合振興局 (函館市以外)	1,488,128	31,160	1,456,968	965,541	482,312	39	9,076
檜山振興局	233,793	1,287	232,506	164,755	61,795	—	5,955
北海道	41,346,340	1,420,831	39,925,509	24,555,924	14,615,225	2,967	751,393

注：「—」は、出典に記載がないことを示す。

〔「令和2年度（2020年度）北海道産業廃棄物処理状況調査報告書」（北海道、令和4年）より作成〕

表 3.2-17 産業廃棄物処理施設数

都道府県	振興局	市町村	中間処理施設数	最終処分場数
北海道	渡島総合振興局	函館市	16	1
		北斗市	12	3
		松前町	1	0
		福島町	1	0
		知内町	5	1
		木古内町	1	0
		七飯町	4	0
		森町	3	0
		八雲町	6	1
	檜山振興局	江差町	3	1
		上ノ国町	1	0
		厚沢部町	2	0
		乙部町	1	1
青森県		大間町	1	0
合 計			56	8

注：函館市は令和5年10月1日現在、その他は令和5年3月31日現在、青森県は令和5年9月現在の情報の情報である。

（北海道環境生活部環境保全局循環型社会推進課へのヒアリング（実施：令和5年6月）
「函館市内の許可業者名簿について」（函館市HP、閲覧：令和6年2月）
「産業廃棄物処理業者名簿」（青森県HP、閲覧：令和6年2月）より作成）

別添資料北海道1次 Q4-7_動物の重要な種への影響の予測結果

表 4.3-13(2) 動物の重要な種への影響の予測結果

分類	主な生息環境	種名	影響の予測結果
爬虫類	樹林	シロマダラ (1種)	事業実施想定区域に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
両生類	水辺、湿地、湿地	エゾサンショウウオ (1種)	事業実施想定区域に主な生息環境が存在するものの、河川等については直接改変を行わないことから、改変による生息環境の変化に伴う影響はないと予測するが、樹林については一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。また、工事実施箇所によっては、濁水の流入等による生息環境への一時的な影響が生じる可能性があるとして予測する。
昆虫類	樹林	ヤスマツトビナナフシ、ヒグラシ、マルツノゼミ、ゴマフトビケラ、カラフトゴマフトビケラ、ダイミョウセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、ウラクロシジミ、フジミドリシジミ、ゴマダラチョウ本土亜種、キマダラモドキ、テングチョウ北海道亜種、ヒメジャノメ、ネグロクサアブ、ジョウザンナガハナアブ、キバネクロバエ、オオハリオサムシ渡島半島亜種、フトクチヒゲヒラタゴミムシ、オシマキンオサムシ、マガタマハンミョウ、オオクワガタ、ヨツボシカミキリ (22種)	事業実施想定区域に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	草地、耕作地等	モートンイトトンボ、ハラビロトンボ、ナツアカネ、ヒメアカネ、ハラオカメコオロギ、タガメ、ギンイチモンジセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、カバイロシジミ、オオゴマシジミ、ゴマシジミ北海道・東北亜種、ウラギンスジヒョウモン、ヒョウモンチョウ東北以北亜種、ヒメジャノメ、キタテハ、ヒメシロチョウ北海道・本州亜種、セアカオサムシ、オシマキンオサムシ、ダイコクコガネ、クロルリハムシ、エゾアカヤマアリ (21種)	
	水辺、湿地	オオアオイトトンボ、モートンイトトンボ、ムカシトンボ、コシボソヤンマ、ミルンヤンマ、サラサヤンマ、ハラビロトンボ、ナツアカネ、ヒメアカネ、フタスジオオウンカ、ババアメンボ、オオコオイムシ、タガメ、カメノコヒメトビケラ、ギンボシツツトビケラ、イトウホソバトビケラ、ギンイチモンジセセリ、オオゴマシジミ、ウラギンスジヒョウモン、キタテハ、ヒメシロチョウ北海道・本州亜種、ニホンセセリモドキ、オナガミズアオ本土亜種、スゲドクガ、エゾカトリバエ、セスジカタキバゴミムシ、アイヌハンミョウ、マメゲンゴロウ、エゾゲンゴロウモドキ、キベリクロヒメゲンゴロウ、キボシツブゲンゴロウ、ミズスマシ、ガムシ (33種)	事業実施想定区域に主な生息環境が存在するものの、河川等については直接改変を行わないことから、改変による生息環境の変化に伴う影響はないと予測する。一方で、工事実施箇所によっては、濁水の流入等による生息環境への一時的な影響が生じる可能性があるとして予測する。
	その他（腐葉土層、地中等）	マツマエメクラチビゴミムシ、カックミメクラチビゴミムシ、カックミチビゴミムシ、センゲンチビゴミムシ、コルリマルクビゴミムシ、オシマメクラチビゴミムシ、スガチビゴミムシ (7種)	事業実施想定区域に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。

2. 予 測

(1) 予測手法

事業実施想定区域と重要な自然環境のままとりの場の重ね合わせにより、直接的な改変の有無及び施設の稼働に伴う影響を整理した。

(2) 予測地域

事業実施想定区域とした。

(3) 予測結果

重要な自然環境のままとりの場と事業実施想定区域の位置関係は図 4.3-5、影響の予測結果は表 4.3-21 のとおりである。

事業実施想定区域には環境緑地保護地区、鳥獣保護区、巨樹・巨木林及び特定植物群落は分布していないため、事業実施に伴うそれらへの影響はないと予測する。一方で、保安林、植生自然度 10 及び植生自然度 9 に相当する自然植生が事業実施想定区域に存在しており、その一部を直接改変するため、面積の減少による生態系への影響が生じる可能性があるとして予測する。

なお、事業実施想定区域上空を利用する可能性がある種については、施設の稼働に伴いバットストライク、バードストライクが生じる可能性があるとして予測する。

表 4.3-21 重要な自然環境のままとりの場への影響の予測結果

重要な自然環境のままとりの場		影響の予測結果
特定植物群落	江差ヒノキアスナロ、アオトドマツ自生地	事業実施想定区域外であることから、直接改変による影響はないと予測する。
ままとりのある自然植生	自然草原 (植生自然度 10)	事業実施想定区域に含まれ、その一部を直接改変するため、面積の減少による生態系への影響が生じる可能性があるとして予測する。
	自然林 (植生自然度 9)	事業実施想定区域に含まれ、その一部を直接改変するため、面積の減少による生態系への影響が生じる可能性があるとして予測する。
保安林		事業実施想定区域に含まれ、その一部を直接改変するため、面積の減少による生態系への影響が生じる可能性があるとして予測する。
鳥獣保護区	椴川鳥獣保護区	事業実施想定区域外であることから、直接改変による影響はないと予測する。

「第 6・7 回自然環境保全基礎調査植生調査 1/2.5 万現存植生図の GIS データ」【調査年：平成 28 年、令和 2 年】（環境省 HP、閲覧：令和 6 年 2 月）

「第 2 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 54 年）

「国土数値情報（国有林野データ）」（国土交通省 HP、閲覧：令和 6 年 2 月）

「ほっかいどう森まっぷ」（北海道 HP、閲覧：令和 6 年 2 月）

「令和 5 年度（2023 年度）鳥獣保護区等位置図」（北海道、令和 5 年）

より作成